

令和 4 年度診療 WG 『がんゲノム医療連携病院の意見拾い上げについて』

連携・連携外のアンケートについて

静岡がんセンター、大阪大学医学部附属病院、九州大学病院

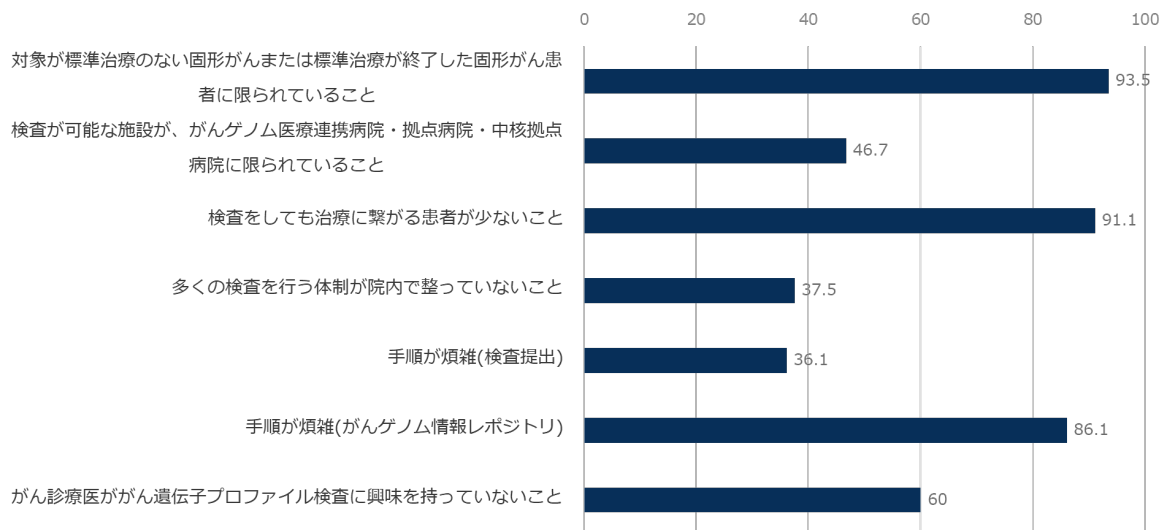
令和 5 年 2 月 5 日

【はじめに】

2022 年 12 月～2023 年 1 月に、がんゲノム医療拠点病院、連携病院を対象にアンケートを実施した。127 施設からの回答（回答率：57.5%）があり、内訳は拠点病院が 19.7%、連携病院が 80.3%であった。

がん遺伝子プロファイル検査の件数を増やすための課題としては、検査の対象が限定されていること（93.5%）、検査をしても治療に繋がる患者が少ないこと（91.1%）、がんゲノム情報レポジトリの手順が煩雑であること（86.1%）であった。課題の自由記載についても、治療に繋がらないこと、院内の人材や体制の問題、検査の適応、保険点数が低く病院の負担が多い、などの記載が目立った。

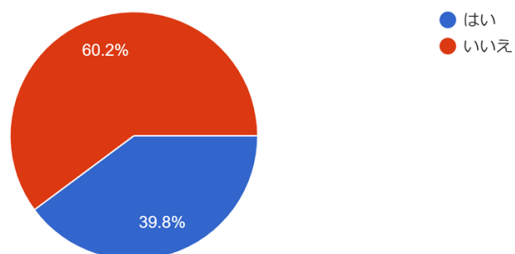
1. がん遺伝子プロファイル検査の件数を増やすための課題について教えてください。



また、自施設でエキスパートパネルが実施できる体制については、39.8%の施設で実施可能という回答であり、1 ヶ月に実施可能な症例数の中央値は 30 例であった。連携病院の一部の施設では、エキスパートパネル実施が可能であることがうかがえる結果であった。

2. 今後、自施設でエキスパートパネルが実施できる体制があると考えていますか？

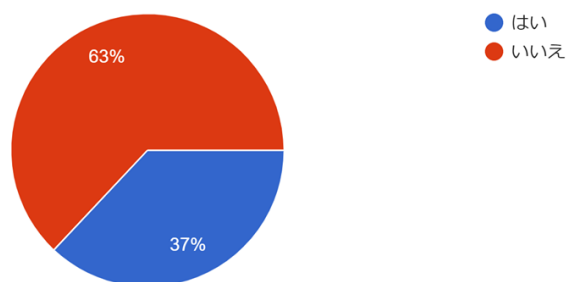
123 件の回答



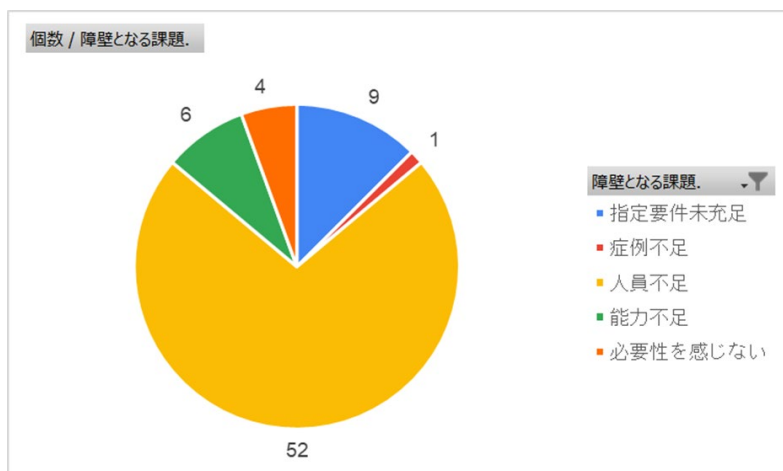
今後、がんゲノム中核拠点病院、もしくは拠点病院の申請予定があるのは 37%であり、申請の障壁となる課題については人員不足がもっとも多く、72%であった。

3. 今後、がんゲノム中核拠点病院、もしくは拠点病院の申請の予定はありますか？

127 件の回答



4. 申請に際し、障壁となる課題についてご記載下さい。



さらには、がんゲノム医療の提供体制がどのようになれば保険診療として広く受け入れられるか、という質問に対しては、診療報酬の算定要件の改善、実施施設への経済的補助、エキスパートパネルの簡略化や負担軽減、治療機会の増加、治験提供体制の改善、検査性能の向上、検査実施施設の増加、業務負担軽減、レポートの改善に関する意見がみられた。

がん遺伝子パネル検査の実施、がんゲノム医療提供の課題として、各施設への負担軽減（とくにがんゲノム情報レポジトリへの入力、保険点数）、標準治療が終了した患者に限られていること、人材の育成（とくにがん遺伝子パネル検査を提出する医師）、検査を行っても治療に結びつかない（治験の施設に限られている、自費診療）が多く認められた。

がんゲノム医療中核拠点病院等連絡会議 診療WG 令和4年度第5回

遠隔医療の推進

担当：北海道大、東北大、京都大、名古屋大、九州大

アンケート調査結果 (2022/12月末～23/1/10)

10 セクション中 1 個目のセクション

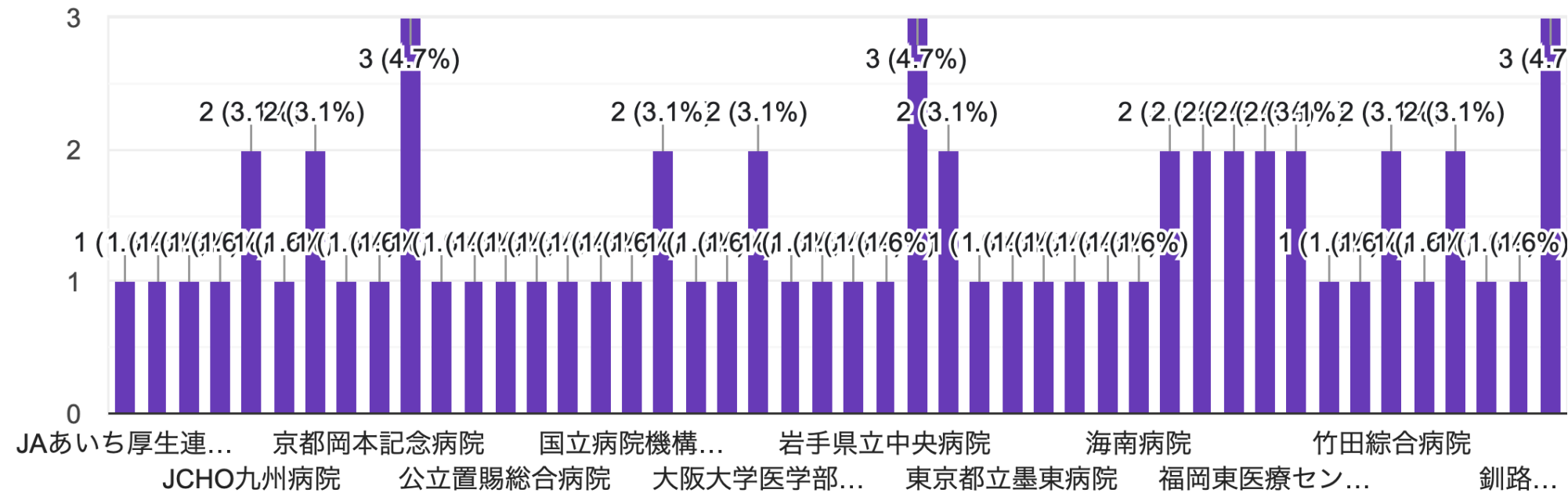
地域がん診療連携拠点病院へのがん遺伝子 パネル検査に関する意識調査

がんゲノム医療の問題点として遺伝子パネル検査を受けられる施設に限られるためそのアクセスに格差が生じております。特に地方においてはその格差は顕著に広がっているのが実状です。がんゲノム医療中核拠点病院の代表者で構成される診療WGではこの格差の是正のため課題点を抽出しております。そのためがんゲノム医療施設(がんゲノム医療拠点病院・連携病院)に指定されておらず地域がん診療連携拠点病院を受けている病院にがんゲノム医療についてアンケート調査を実施いたします。

申し訳ございませんがそれぞれの病院事務経由で担当の先生にご回答頂けるようお願い致します。回答者の属性は集計に用いますが、氏名などの個人情報は匿名で集計されます。

記載者所属施設

64 件の回答

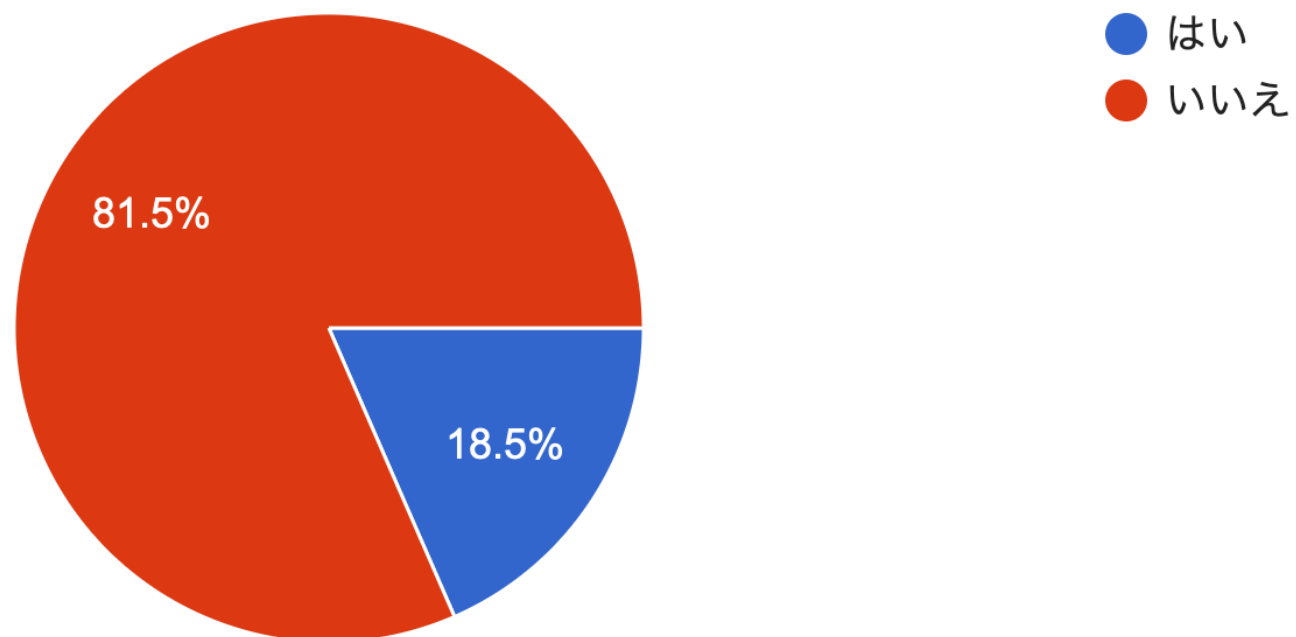


都道府県名	北海道	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県	東京都	静岡県	愛知県	京都府	大阪府	福岡県	計
施設数	6	1	2	3	2	3	2	2	1	4	1	11	38

* 前回11月アンケート 29施設

がんゲノム医療拠点病院・連携病院の指定についてお聞きします。 0.
貴院はがんゲノム医療拠点病院・連携病院ですか？

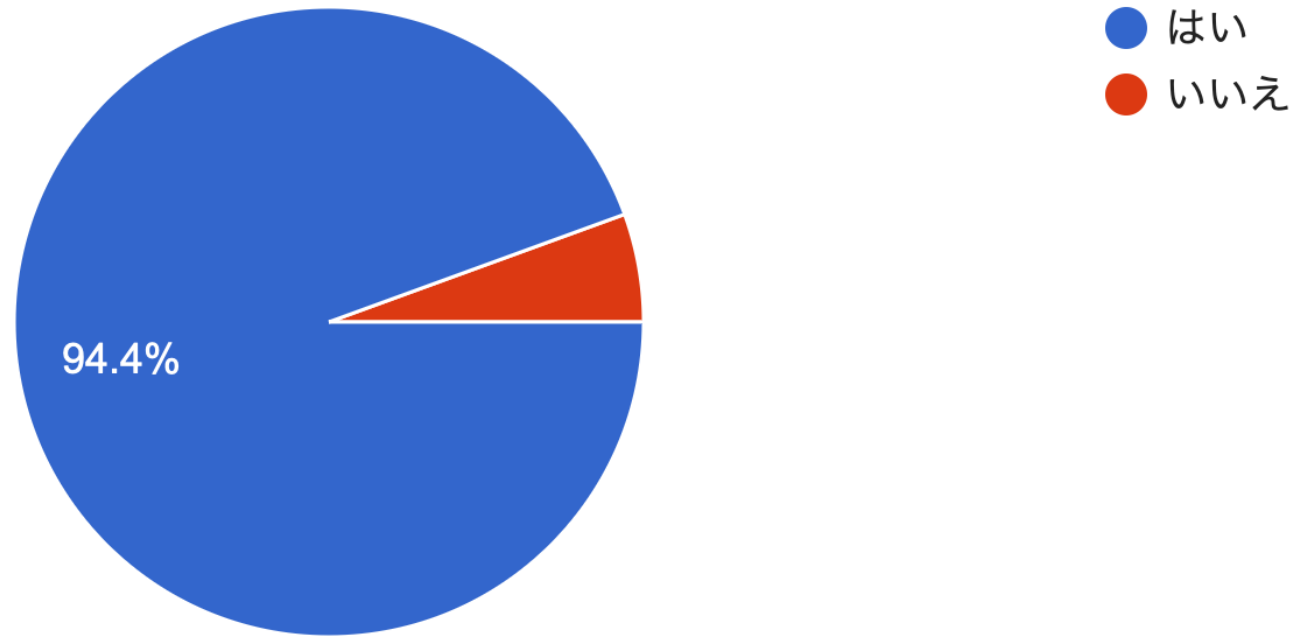
65 件の回答



がん遺伝子パネル検査の周知度

がん遺伝子パネル検査(包括的がんゲノムプロファ...がん遺伝子パネル検査について知っていますか？

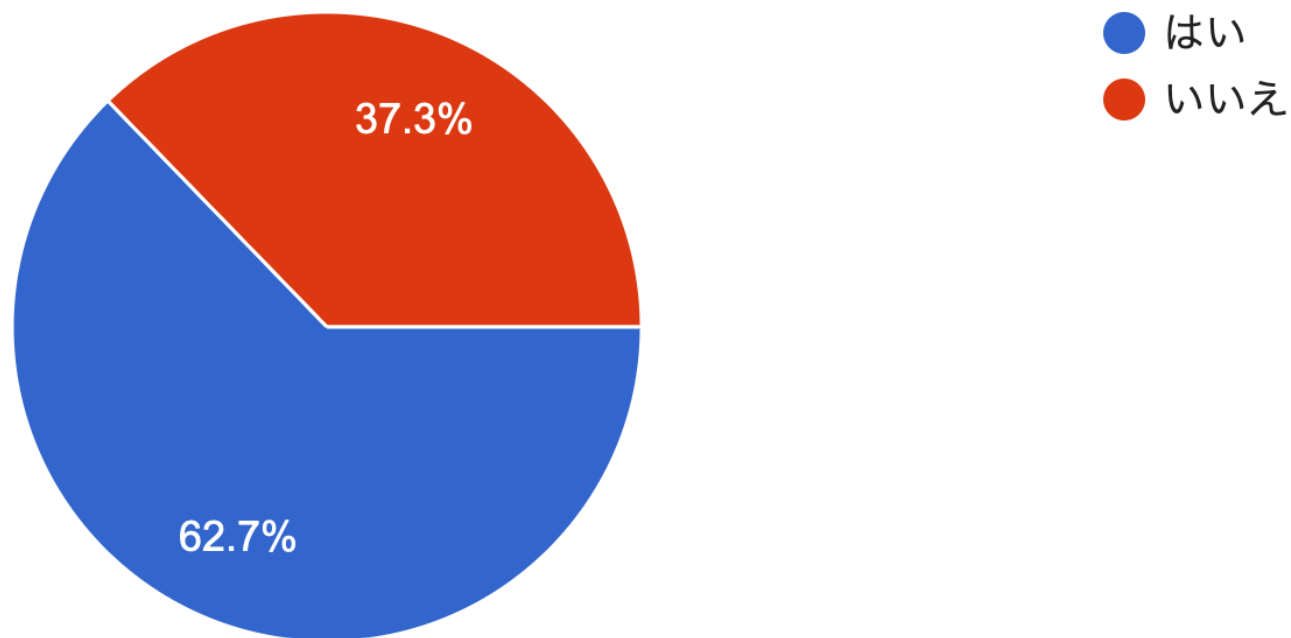
54 件の回答



がん遺伝子パネル検査について知っている

1-1. がん遺伝子パネル検査目的でゲノム医療施設に患者を紹介したことがありますか？

51 件の回答

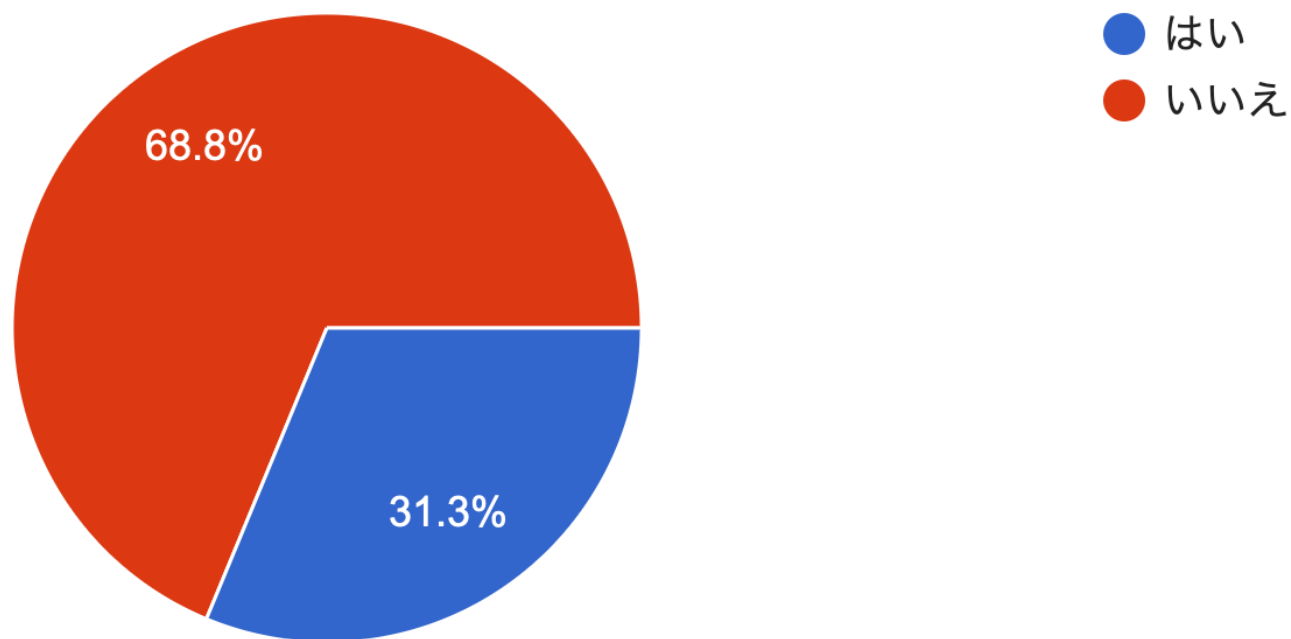


がん遺伝子パネル検査目的でゲノム医療施設に患者を紹介したことがある。

1-1-1.

貴院ではゲノム医療施設に紹介するにあたって、院...フローなど簡略化できる工夫をされていますか？

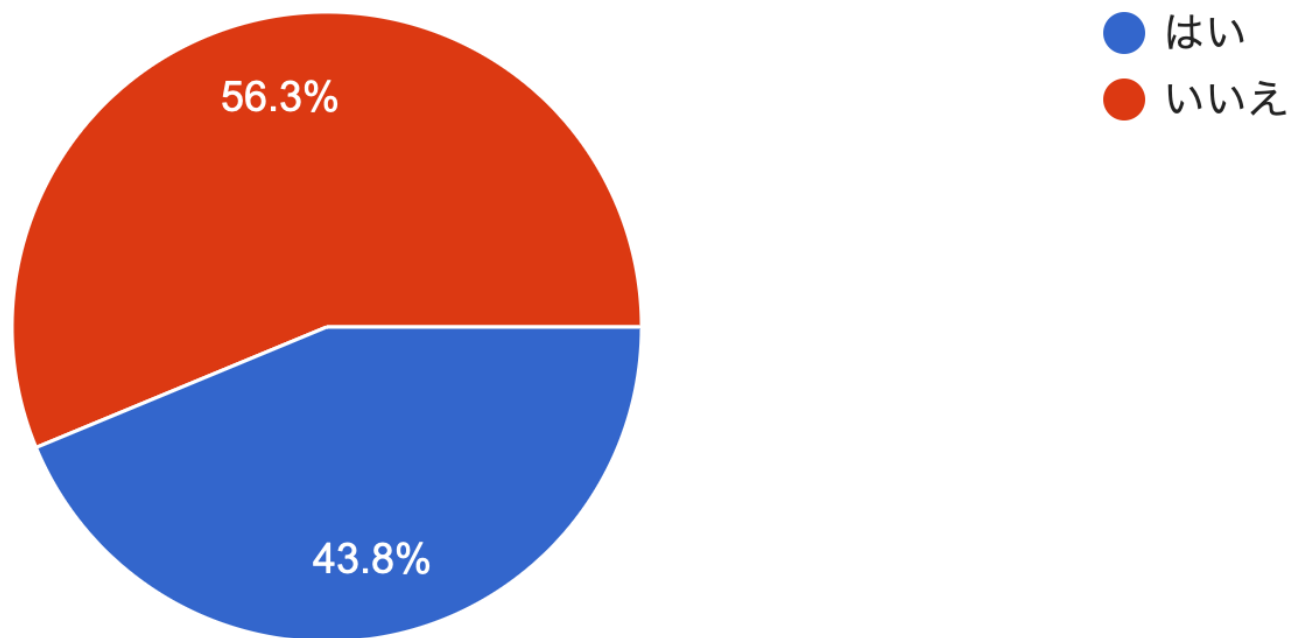
32 件の回答



がん遺伝子パネル検査目的でゲノム医療施設に患者を紹介したことがある。

1-1-2. 紹介するにあたってハードルとなることや、不明点がありますか？

32 件の回答



1-1-3. 紹介にあたってのハードル、お困りごと、不明点があれば記載してください。

18 件の回答

距離的な問題

- 紹介病院への距離的・時間的なハードルが高い。遠方なため患者負担が大きい。

受診手続き

- 窓口が不明瞭。予約の取り方が複雑、結構先になる。
- 受診でなくセカンドオピニオン紹介するかどうかの判断。
- 紹介先（病院および部門）をどこにすべきか。
- 紹介する施設によって、必要とされる書類や資料が大きく異なる。

検査のタイミング（late lineでの検査）による問題

- パネル検査に費やす時間、患者さんが亡くなり紹介先への迷惑
- 紹介後に患者が急変、結果説明を聞けない場合が一定の割合で生じる。
- 3ヶ月の予後の見通しの難しさ。

1-1-3. 紹介にあたってのハードル、お困りごと、不明点があれば記載してください。

18 件の回答

検査についての患者・家族への説明

- 患者や家族の意向の確認、同意をとる過程
- 患者さんへ、F1とBRCAAnalysisの違いを説明してもなかなか理解してもらえない
- 患者・家族の理解と期待度

医療者側の理解

- 検査の金額がわからない。
- 病理検体の品質評価、予約システムの理解

ハードルがないとの意見もあり

- 以前は提出書類が多くて入力が大変だったが、令和4年になってから簡略化されて申し込みしやすくなった
- 同門の先生に出しているので、連携は良好です。
- 連携病院の医師（腫瘍内科）とコンタクトを密に取っており、難しくないと思います。

1-1-4. 受診してから検査結果返却まで、あるいは検査結果返却後の診療において、お困りのこと、がんゲノム医療病院に改善してほしい事等ありましたら記載してください。

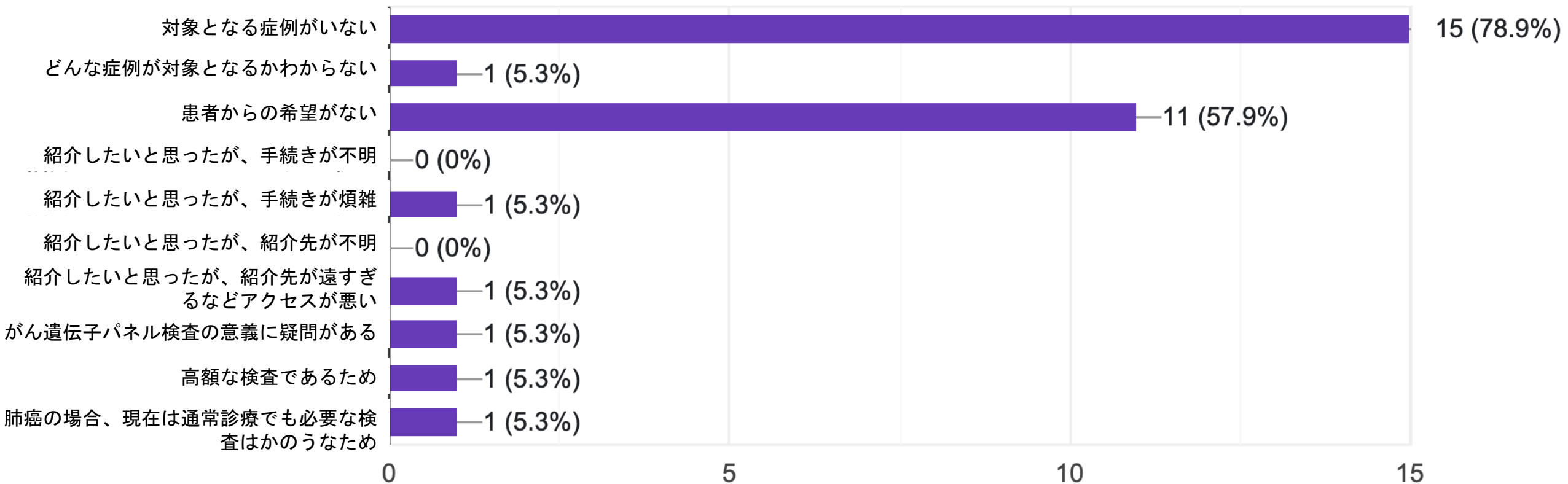
14件の回答

- 治験情報をしぼってほしい。
- EPの結果、おすすめの薬剤が的確に書いていないのを改善してほしい。例えば、1番が治験薬（東京でしかしていない）、2番が保険収載薬剤（適応病名も通っている）のときの、おすすめはどちらかということを書いてほしい。
- 当院採用薬以外または保険適応以外の治療薬が候補となった場合の対応をどのようにするべきか。
- パネル検査で有望な遺伝子異常が指摘された場合に、それに該当する治験を探すのが難しい。
- 二次的所見に対する対応
- 二次的所見が見つかった場合について。今後ゲノム診療を普及していく中で、各病院個々で遺伝外来の体制整備・人材資源確保は困難が多い。中核病院においてオンラインでの遺伝相談・診療ができる体制が望ましいのではないか。
- 早急な治療を行いたい時には時間がかかる。
- エキスパートパネルの開催が最終的に必要であること、日程が見通せないこと。
- 結果までの期間や、結果がわかった際に当院で治療導入することができない制約など。
- 早い段階で紹介したい。診療情報提供書だけでは、薬剤投与中の細やかなフォローについての担当医師とのやりとりができない。
- 特になし。ありません。きちんと対応していただいている。

がん遺伝子パネル検査目的でゲノム医療施設に患者を紹介したことがない。

1-2-1. 紹介したことがない理由として当てはまるものの全てにチェックをつけてください

19 件の回答



1-2-2. もし、紹介にあたってのお困りごと、不明点があれば記載してください。

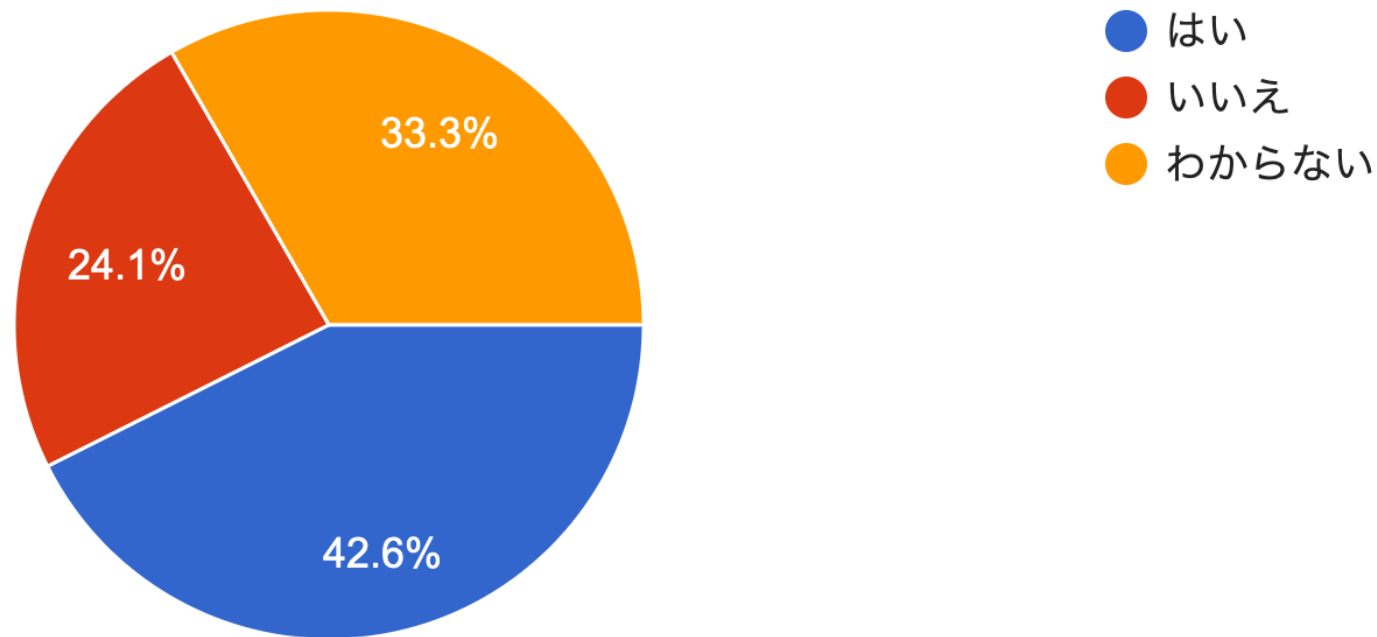
2件の回答

- 造血系腫瘍の保険適応がない。
- 特になし。

2.

貴院では遺伝子パネル検査が行えるがんゲノム医療...設の指定（連携病院）の申請を考えていますか？

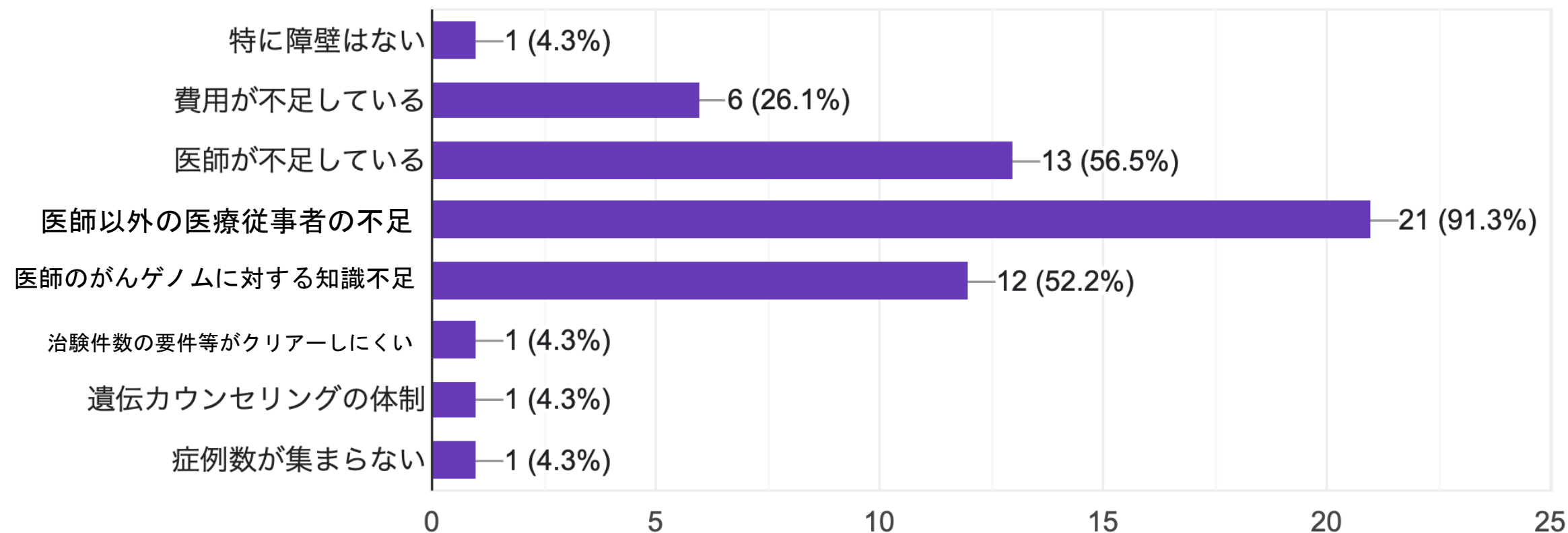
54 件の回答



遺伝子パネル検査が行えるがんゲノム医療施設の指定（連携病院）の申請を考えている。

2-1. 申請する上での障壁がありましたら、当てはまるものの全てにチェックをつけてください。

23 件の回答

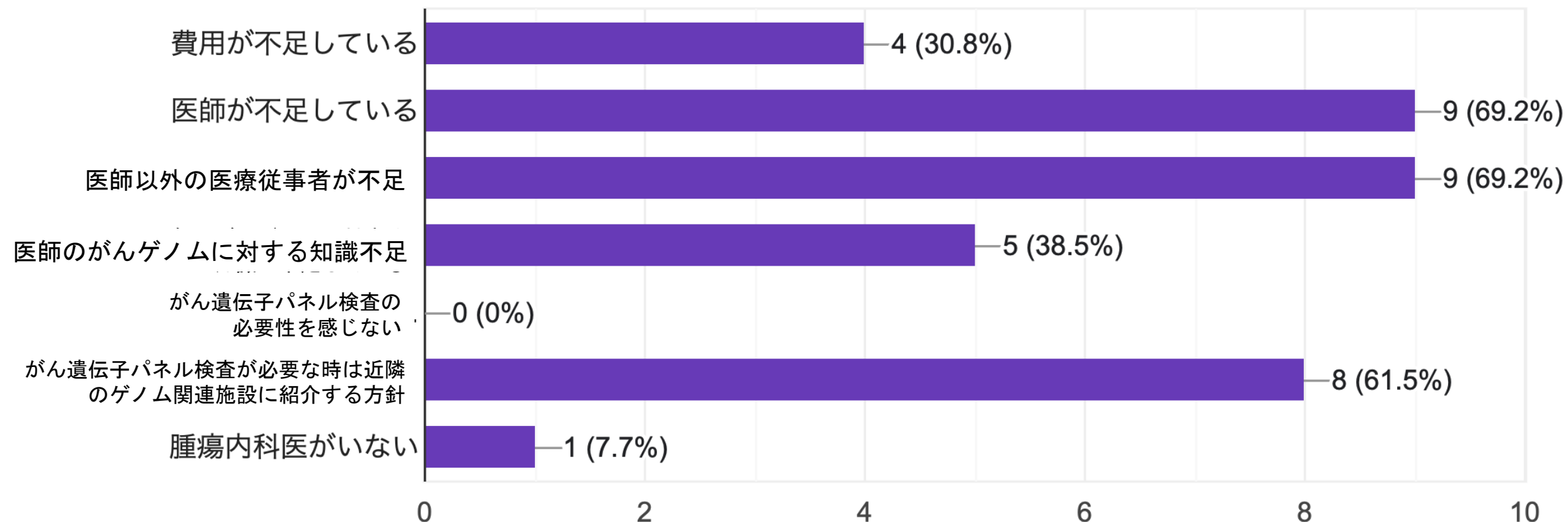


医師以外の医療従事者：看護師、検査技師、事務職員、認定遺伝カウンセラー

遺伝子パネル検査が行えるがんゲノム医療施設の指定（連携病院）の申請を考えていない。

2-2. 申請に消極的な理由はなぜでしょうか。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。

13 件の回答



医師以外の医療従事者：看護師、検査技師、事務職員、認定遺伝カウンセラー

がん遺伝子パネル検査を実施してから検査結果返却まで、あるいは検査結果返却後の診療において、お困りのこと、がんゲノム医療全般に改善してほしい事等ありましたら自由に記載してください。

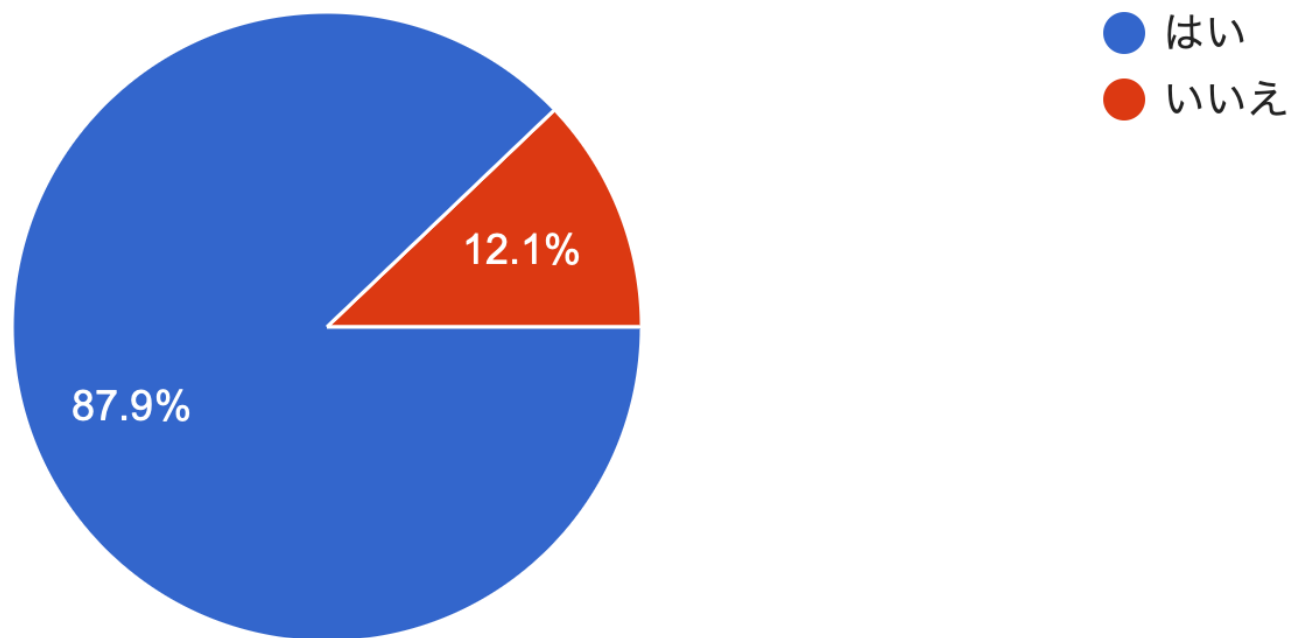
8 件の回答

- がん遺伝子パネル検査は一応理解はしているが、まだ一般的ではないと感じてしまい、紹介まで至りません。一般の勤務医レベルでも想起しやすいようガイドラインへの記載への働きかけや、広報につきお願いできると助かります。
- 機会が少なく十分な理解ができていない。
- 二次的所見の相談窓口を明確にしてほしい。
- 診察など、オンラインでできることはオンラインでしていただければ、遠方の当院の症例などは助かると思います。
- 検査をする上で患者さん負担が大きく医療格差を感じます。
- 拠点病院に紹介しても、現在対応できない、として断られることが何回かあります
- 特になし

3. がん遺伝子パネル検査に関する情報提供の希望について

がん遺伝子パネル検査について講演会など情報提供の機会があったら参加したいですか？

66 件の回答



まとめ

- がん診療拠点病院でゲノム医療関連病院の指定を受けていない施設の約4割が今後指定の申請を検討しているが、医師や医療スタッフの人材不足、医療スタッフのゲノム医療についての知識不足が問題となっている。
- 2割の施設では今後も申請は検討しておらず、同様に医師やスタッフの人材不足、医療スタッフの知識不足、費用不足が原因として挙げられた。
- 遠方であることが患者負担になっており、オンライン診療、特に遺伝カウンセリングについては中核病院においてオンラインでの遺伝相談・診療ができる体制が望ましい。
- がん診療拠点病院でパネル検査の対象となる患者がいない、患者が希望しないなどの理由で検査が行われておらず、医師・医療スタッフへのがんゲノム医療の啓蒙や、ゲノム医療関連病院以外の医師が関連病院の医師に気軽に相談できる窓口があることが望ましい。
- 各学会のガイドラインでパネル検査について記載するような働きかけが必要である。